

令和6年度 学校評価シート

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）
・文武両道を基本として、生徒一人一人の資質と能力の向上を図り、確かな学力と豊かな人間性を備えた生徒を育成する学校
・合理的な思考、積極的な行動ができるとともに豊かな情操をもつ生徒

学校評価の公表方法
ホームページ掲載等により、保護者、学校関係者、地域住民等に重点目標及び具体的取組を示すとともに、評価の結果を広く公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）								学校関係者評価 （2月18日実施）	
番号	計画・取組				評価（3月24日現在）				
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策		
1	・新学習指導要領において新しく開設された科目を中心とした授業研究 ・観点別学習状況の評価の充実 ・ICT機器の効果的な活用についての研究	B	全教科において、新教育課程における科目を中心とした研究授業を年間2回実施し、日々の授業改善につなげる。	・研究授業の実施状況と授業における改善の取組及び達成の状況（アンケート結果等）	B	11月を中心として研究授業を行い、授業改善に取り組んだ。人数の少ない教科においては実施できなかったところもあった。アンケート結果に基づき、各教科で改善策を話し合った。	研究授業の回数を更に増やして、授業改善に活かせるよう、各教科に積極的に働きかける。観点別評価と評定の対応を再考し、推薦入試等で活用できるように検討する。生徒用PCは総合的な探究の時間では使用しているが、他の教科においても使う場面を増やしていく。		西嶋校長の下、先生方が一丸となって生徒のための教育活動をされている様子がよく伝わった。
	観点別学習状況の評価について、評価規準の充実、改善を図り、評定の基準について検討する。		・評価規準に基づく評価状況及び年度末に提案される改善案の状況（教職員評価等）	B	観点別学習状況の評価方法について研究を深めた。他校も参考にして、評価の付け方について教科会議等で話し合った。				
	ICT機器を効果的に活用する場面を各教科で設定し、共有・研究する機会を設ける。		・各教員の授業におけるICT活用の状況（アンケート結果等）	B	ICT機器は各教科で活用されているが、通信環境が改善されておらず、生徒が一斉に生徒用PCを使う場面は少ない。				
2	・生徒一人一人が主体的に自らの進路や社会の未来を切り拓いていける資質・能力を育成するための系統的・体験的な教育活動の提供 ・多様な進路希望に対応し、個々の進路意識を高めることのできる情報及び機会の提供	B	ユネスコスクールの取り組みの中心としてESDを位置づけ、総合的な探究の時間を軸に、地域、社会及び自己の進路設計について考察させる。	・ESD及び進路に係る総合的な探究の時間やLHRにおける生徒の活動状況（アンケート結果、教職員評価等）	A	多様な外部機関と連携し、総合的な探究の時間やSEEKERの活動を実施できた。新たにゼミ形式の探究活動や高2探究成果発表会、DXスタディーツアーを企画した。	総合的な探究の時間の年間計画・外部連携等を再検討し、教員研修を実施して探究活動を発展させる。また、ESD推進室の専任教員を1名増員し、国際理解・地域連携等のユネスコスクールとしての活動を充実化する。 国公立大学の総合型選抜、学校推薦型選抜において、生徒の多様な興味・適性・能力を引き出し対応することができた。今後はESDと連携し、生徒の探究活動を活かした指導について研究していきたい。		昨春の選抜野球では田辺高校が出場し、強豪校に惜敗はしたものの、地域に大変明るい話題を提供してくれた。まだまだ生徒たちの素晴らしい取り組みもあるかと思うが、さらに生徒たちの活躍を地域に発信していくような取り組みを進めていただければと思う。
			生徒・保護者及び担任・学年団に対して、適切な情報提供を行い、ガイダンス機能・カウンセリング機能の充実を図る。	・模試分析会（3学年5回、1・2学年3回）、個人面談（5回以上）の実施状況及びClassiの活用状況（教職員評価等）	B	模試分析会、ならびに個人面談については、計画通り実施することができた。Classiを用いて必要な進路情報を行うことができた。			
			社会人講師、大学教授、教育NPO、卒業生等多彩な外部人材による講義・講演の機会を設け、生徒一人一人の進路目標の具体化を図る。	・外部人材等を活用した各種取り組みの実施及び成果の状況（アンケート結果等）	B	社会人講話、ライブカレッジ等の取り組みにおいて、外部人材を活用し、生徒の進路意識の高揚を図ることができた。			
3	・卒業後に生かすことのできる、社会人として身につけておくべきマナーやモラルの獲得をめざす指導の充実 ・心身の健康保持・増進や衛生環境の保持について学び、自己管理につなげることのできる能力の育成	B	服装・頭髪、交通ルール、スマートフォンの使用等について重点的に指導する期間を設定し、全職員による継続的な指導を行う。	・全教職員の共通理解のもとで行う計画的・継続的な指導の実施状況及び生徒の改善状況（教職員評価等）	B	アセンブリーやHRまたは個別に啓発、指導を行ってきた。概ね守られているが、教員間での共通理解や指導のあり方について更に共有を図りたい。	変わり行く社会の変化に学校の生徒指導もアップデートしていかなければいけない。今一度校則等が時代に即したものなのか議論し、見直しを検討していく。本校の教育相談は豊富な知識を有した教員が担当しているため充実した状況にあるが、多様な生徒が増える中、一部の教員で担当するだけでなく情報共有を積極的に図り、さらに支援体制の構築を進めていく。		高校を卒業すると地元を離れる生徒のみなさんが多いと思いますが、地元和歌山が好きで、田辺高校に在籍して良かったと思う生徒の育成を願います。
			清掃活動や厚生委員会による啓蒙活動、外部講師による講習会の実施及びSCや外部機関と連携した個別の生徒対応を計画的に実施する。	・厚生委員会による評価も加味した各取り組みの実施状況（アンケート結果、教職員評価等）	B	活発な厚生委員の活躍が目立った。現職教育も実りあるものであった。SC、SSW、下部機関との連携も充実していた。			
4	・自主的・自律的な学校行事や生徒会活動の企画・運営 ・効果的なクラブ活動の工夫 ・併設中学校と連携かつ共生した行事や活動の企画・運営	B	・生徒会役員及び執行部の役割や責任についての意識を高めるとともに、自主的・自律的に活動に取り組める支援を行う。	・生徒総会、LHR、中央委員会及び各種委員会における提案内容や議論の質の状況（アンケート結果、教職員評価等）	B	生徒やクラスからの意見を参考に、行事運営を行うことができた。生徒会での議論の質は高まり、クラブ規定の見直し、行事運営や校則についてなどについて今後の議論が進んでいる。	文化祭は例年通りの流れで行うことができた。学校行事全般の取り組みについて、多忙化解消や効率化、安心・安全への配慮などを踏まえ、引き続き取り組みについて整理していきたい。中学、高校それぞれの活動を保障しつつ、どのように連携を図っていけるか、時代の流れやニーズに対応し、伝統を継承しつつ新たなチャレンジで本校の特色を表現できればと考える。 クラブ活動は活動時間や頻度、クラブ規定や施設などを見直し、安心・安全かつ豊かな学園生活を送れるよう、生徒が積極的の活動できるよう支援していきたい。教育目標を達成するために、本校理想の教育目標を大切にしていきたい。		いつも子供たちのためにご尽力いただいております。
			・生徒の学習機会と安全・安心な環境を確保することに加え、効果的で活発、教育的かつ合理的なクラブ活動等の運営を支援する。	・具体的取組の達成状況及び生徒の達成感や満足感、成長の様子等の状況（アンケート結果、教職員評価等）	B	ケガの防止や熱中症の予防のなど安全面に配慮しつつ、教育的かつ合理的な実践がなされているが、活動の在り方を整理していく必要がある。			
			・各行事やクラブ活動等の内容について、中学校と連携した企画・運営に努める。	・中高一貫校の特色を意識して実施された各種行事や活動の状況（教職員評価等）	B	文化祭やクラブ活動において連携した取り組みがなされている。中学、高校それぞれの活動が保障できる場面も多く、活動を充実させられるよう施設や時間の調整に努めた。			